

令和元年度 第2回学校関係者評価委員会及び学校活性化対策委員会 報告

1 日 時；令和2年2月20日（木）13：30～15：00

2 会 場；本校視聴覚室

3 出会者；学校関係者評価委員兼学校活性化委員 6名，本校職員 16名

4 内容

(1) 開会の言葉

(2) 校長あいさつ

(3) 本年度の活動状況等について（各課程より）

※第1回学校関係者評価委員会で確認した各課程・各部の「今年度の重点目標及び具体的な取組」反省等を踏まえて今年度の活動状況と次年度に向けた課題について報告する。

(4) 学校評価アンケート結果報告（各課程より）

(5) 質疑・意見交換

・生徒が本校を選んだ理由の一つは、やはり高校卒業ということではないか。令和元年度後期の卒業生は428名，前期を含めると今年度は510名が卒業することになる。本校としては、一つの役割を果たしているのではないかと。

・通信制では、3年前からベーシックスタディ教室（学力に自信がなく、登校不安のある生徒などを対象とした学び直しの場）を開設していたが、今年度は中学校程度の学力は身につけている生徒の参加が目立ち、本当に基礎から学びたいという生徒が申し込みづらく、困っているのではないかと危惧される。一方、来年度から教育課程において英語入門と数学入門を開設するので、よりきめ細やかな学習指導ができると考えている。

また、「聞き合う会」（学習活動や学校生活に困難を抱えている生徒の保護者を対象にした悩みや情報を共有し、保護者同士で互いに励まし合う場）は4年前から開催している。この会で悩みを相談することで少しずつ親子関係が改善し、生徒が卒業に向け学習を進められるようになっていく。

・生活状況等が複雑なお子さんには、ソーシャルワークが必要になってくると思うが、開陽高校ではスクールソーシャルワーカー（SSWと呼称）については、どうなっているか？

→SSWは県に2名採用されており、本校への常駐は難しいが、過去において2名の生徒の対応等でSSWにつないだことはある。

・SSWもスクールカウンセラー（SCと呼称）と同じくらい手厚くしてほしいと県教育委員会にお願いしてほしい。県の財政のこともあり難しいと思うが・・・

→本校職員とSCとのコンサルテーションで、情報共有がしっかりとできており、どの課程の職員も生徒に寄り添った指導をいただいている。しかし、そうはいつても、複雑化・多様化する生徒への対応にはSSWの支援も必要なので、今後とも本校にSSWを常駐してもらうように県への働きかけを継続していくつもりである。

・開陽高校は、生徒指導に一生懸命取り組んでいると思われる。警察としても何かとご協力いただき、有り難いと考えている。南署管内での声かけ事案は昨年（1～12月）73件あり、西谷山地区では

2件(4/24 女兒に車からの声かけ, 8/5 公然わいせつ) 発生している。公然わいせつがなくなる。少年非行の特徴点として, 245名(少年は粗暴・窃盗が30名で前年同期に比べて1名増, 触法行為は20名で同じく7名増, 青少年育成条例違反や児童ポルノ・買春などの特別法違反が6名で同じく2名増)となっており, 補導は259名で, 主に深夜徘徊などであった。最近は永田橋周辺の工事もあり, (事故防止もかねて) パトロール巡回はしていたが, 開陽高校の生徒や有職・無職少年等が絡んだトラブルもあって谷山駅周辺もパトロール巡回をした。

→本校にも指導に乗らないような生徒はいるが, 非行に走るような子どもたちに対しても大人が諦めず, 根気強く語り込んでいく必要を感じている。

・谷山中学校2年生の訪問学習で, 開陽高校福祉科には活動に協力していただいて, ありがたかった。また, 全日制課程が卒業時に発刊している記念誌「クローバー」を読ませていただいたが, 「この学校で新しい自分に出会えた」といった前向きな言葉が並んでいて非常に感動した。開陽高校は, 様々な経験を経て, 悩みや課題が多い生徒にとって救われる学校であると思っている。

・開陽高校の福祉科が表彰されていたが, どのような内容であったか。

→鹿児島県協働型地域コミュニティづくり推進優良団体学校部門で優秀賞を取った。昨年度, 福祉科が県教育委員会から「地域創生人材プロジェクト」実践校に指定され, 「やねだん」訪問学習や高校生主体で開催した県内初の「認知症カフェ」などの活動が認められて表彰された。

・配慮を要する生徒に対する進路指導の取組を教えてください。

→校内でも総合的な探求の時間などを利用して, 必要な生徒に対して進路講話や社会人講演会, 校内・校外の進路ガイダンス, 卒年次や卒業生による進路報告会などを行い, 進路意識の醸成に努めている。また, 就労・修学支援について, 就労定着のために外部機関(鹿児島障害者就業・生活支援センターや特別非営利活動法人等)とつなぐようにしていきたい。

→通信制では進路のミスマッチを可能な限りなくすために, レポート提出時の指導や学級通信, メール等を利用して, 必要があれば外部機関へつないでいる。

・西谷山夏祭りなど地域行事に参加していただいて, ありがたいと思っている。貴校の「認知症カフェ」があるということで, 西谷山地区の高齢者に声をかけたところ, 23名参加してもらった。参加した方々は満足した様子だった。夏祭りと同様に「認知症カフェ」も高校と地域との大事なつながりなので, 来年度も開催をお願いしたい。「認知症カフェ」に携わった生徒たちがどう考えているのかアンケートなどを取って, 地域の者にも聞かせてもらいたい。生徒たちも楽しく取り組んでいるようだったので, 今後も続けてもらいたい活動の一つだと思っている。

・夏祭りの日程等には, 今月末には連絡したいので, ぜひ参加していただきたい。

・開陽高校は校則が無いなど社会と異なる部分がある。社会ルールと学校評価アンケートの感覚が違うので, 学校としての立場と社会人としての立場を考えたとき, 基礎的な部分での最低限度の校則はあっても良いのではないか。

・保護者としては開陽高校に感謝している。私は, 不登校の生徒・保護者を対象にカウンセリングの仕事もしているが, 小学校でも不登校になる生徒が増えている。コミュニケーションが取れない, 相手の気持ちを読めない, 先生の言うことを聞かない, 学級崩壊など様々な課題がある。(高校に進学せず)中卒になってしまう生徒もいるので, 開陽高校は必要な高校だと思う。勉強を教えることより心の有り様を教えることは難しい。

→一定時制は前・後期それぞれ家庭訪問(後期は入学生のみ), 全日制は前期に家庭訪問を実施して, 可

能な限り生徒や家庭の状況等を把握するように努めている。

・開陽高校の存在には感謝している。様々な悩みを抱えている生徒・保護者が増えているのは確かだと思う。私は、現在、福祉施設で働いている。高齢者福祉施設は先が見えているが、児童福祉施設はつなぎの役目が多くなってきている。施設を出た生徒が、(職員以外に)誰か頼れる人・関わる人がいなくなったときが心配である。実際、消費生活において、クレジットカードでのトラブルも起きていて、私たちに何が出来るのか考えていく必要がある。

→消費生活講座について、全日制では、家庭科の授業や卒業生講座で行っている。通信制では、消費生活講座のために集まることは難しい。「消費生活」という授業を受講していればいいのだが…。定時制では、全日制と同じように家庭科の授業で行っている。

→これから社会に出て行くために必要な準備等について、対策を考えていきたい。

・制服や校則がほしいという声があるが・・・学校が大切にしていることに磨きをかけていただきたい。

→制服については、LGBTや一律が苦しいという生徒もいることから、なかなか難しい。

・就職先で開陽を評価してくださっている事業所等は、どこか？

→全日制では、学校斡旋で就職していく。昨年度に引き続いて就職している事業所は、先輩からの情報を参考にしたり、就職説明会等で職員から話を良く聞いた上で決定しているようだ。

・本校の通級による指導を受講した生徒は、ほとんどが自閉症スペクトラムという診断を受けている。

小中学校ではそういった診断を受ける生徒は増えているのだろうか？

→小中学校では、一人でも支援が必要と判断されれば特別支援学級を設置することになっていて、8人を超えともう一学級作ることになる。小中学校ともに、支援が必要との認知は増えており、特別支援学級の設置数も増えている。谷山中学校の特別支援学級は4学級である。

・本校は、来年度からLL教室を通級による指導を実施する部屋として使用するとともに、後方を仕切って、心の落ち着かない生徒などのクールダウンの場所を確保する。

→クールダウンの場所については、注意が必要である。生徒を一人にしないなど関わる大人がいればいいのかと思っっている。

・事情のない生徒は、本当にいない。要配慮者は氷山の一角ではないか。根気強く付き合っていくしかないのではないだろうか。

(6) 閉会の言葉